

新しい風

発行/ はしもと紀子 後援会
代表/ 堀田和喜
〒569-1118
高槻市奥天神町2-13-38
TEL・FAX 0726-81-0669
E-mail hashimoto-n@tcn.zaq.ne.jp



はしもと紀子後援会ニュース

2003/冬 No. 2

食の安全安心を

いのち・くらしを守るため
経験をいかしてがんばります

食べ物が安心できない！

昨年は、BSE（狂牛病）の新たな発症や大手食品メーカーの産地偽装事件、中国野菜の残留農薬問題など相次ぐ「食」問題で、私たち市民の間に、食品への不信が広がりました。

私は、高槻の学校栄養職員第一期生として、子どもたちにとって「安全でおいしい」学校給食をつくるために27年間、とりくんできました。「食」は私たちの命と健康を守るかけがえのないものです。

「食の安全」の体制づくりを

BSE発症を契機に、日本の行政が消費者に安全な食品を提供する視点に欠けていることが明らかになりました。

農産物が食品になるまでに、その所管は複数の省庁間にわたり、一貫性がありません。

はしもと紀子

また、世界一の食糧輸入国でありながら、安全の監視体制が十分機能していません。

食の安全確立のため、食品安全基本法を定め、独立した新機関による一元的な管理が必要です。

食の安全はみんなの手で

大阪府は昨年12月に国の食品安全委員会の構想に対応して「大阪府食の安心・安全委員会」を発足させ、府民の「食」に対する様々な質問に適確に対応する体制を整備することをすすめています。

消費者の商品選択の基準は、販売する側の一方的な情報にたよるしかありません。適正な食品表示を徹底していくため、企業等にJAS法を守るよう、消費者と行政が連携した食品監視のとりくみをすすめる事が必要です。

「食の安全」女性の視点で。

私の提言



地域農業で都市の緑地帯を

食糧政策は、暮らしの安心と安全にとって重要な課題です。

わが国の食糧自給率はわずか40%にすぎません。食糧自給とともに、都市の緑地帯としての都市型農業の振興をすすめる、また、そこでできたものをそこで食べる「地産地消」を推進し、食の安全・安心の信頼回復をすすめるとりくみが必要だと考えます。

中核市高槻、子どもたちの未来のために地方分権の中で食の安全対策に、はしもと紀子はがんばります。

気楽に歩ける歩道を。 自転車専用の道がほしい

(60才代、女性)

自動車がこんなに増えて、市内は車であふれかえっています。

街の真ん中を国道が貫き、昼も夜もトラックの列。渋滞で車の出す排気ガスは臭くて。

気楽に歩ける歩道とサイクリングロードがあって、危険を感じないで外に出たいものです。

【はしもと】市内交通では、歩くことと自転車、それに公共交通機関をうまく組み合わせることが大切です。

高齢者や子どもたちが住みやすい高槻をつくるためには、地域再生の「経済学」といった視点で、市内の交通政策を考え、見直すことが大切です。

夏の思い出 (30才代、女性)

夏の初め頃、図書館の出口で「卯の花を見たいのですがどこにあるのでしょうか」というお年よりを市役所の南の庭に案内してあげましたが、切り株から新しい枝がいっぱい伸びていて花はありませんでした。それで



木が多く植わっている城跡公園へも行ってみましたが、卯

の花の木は見つかりませんでした。

「ありがとう、ごめんなさいね」といわれて、私は困ってしまいました。

【はしもと】卯の花は「うつぎ」といって、たしか「市花」のはず。そのわりに市民にはなじみが薄いですね。卯の花を学校や公園にもっと植えて、だれもが親しめる花にするのもいいですね。



地域の文化を大切にしたいです (65才、男性)

「今城塚」にはよく散歩に行きます。今回の発掘ではまたまた新しい発見があって、古代ロマンへの夢がふくらみます。闘鶏山古墳も発見され、この高槻もたいしたものだと誇らしい気分です。歴史や風土を生かした個性的な地域文化を大切にしまちづくりをぜひすすめてください。



【はしもと】市民が抱く高槻市のイメージでは「文化財や史跡が多く、歴史性豊かなまち」がトップを占めています。いま今城塚は史跡公園として整備がすすんでいます。高槻では身近に多くの史跡があって気持ちが豊かになります。今城、岡本、阿武山をむすんだ「三島風土記の丘」構想なんかロマンがあつていいですね。

タバコの煙、困ります (小学5年女子)

わたしは困っていることがあります。それはバス停でタ

はしもと紀子プロフィール

- ・1950 金沢市生まれ
- ・1971 北陸学院短期大学食物栄養学科卒業
- ・1971～金沢市教育委員会に勤務
- ・1975～高槻市立芝生小学校、穂家小学校、富田小学校、清水小学校に勤務
- ・現在 *管理栄養士
*高槻市男女共同参画審議会委員
*NPOグリーンエンシューマ大阪ネットワーク・たかつぎ代表
*子どもの食教育研究会代表
*民主党高槻県本市民運動部長

好きなこと

庭仕事・音楽鑑賞・みんなで飲んで話すこと





ニコを吸う人です。特にJRや阪急の駅のバス停なんかは、よらぶ人が多いので絶対止めてほしいです。この前も、平気ですっている大人の人がいて、すぐ横のわたしとお年寄り(は)は、とてもつらくてイヤでした。

【はしもと】いま「受動喫煙」が大きな問題になっています。まずは喫煙者のマナーだと思いますが、列に並んで吸う場合は、たしかに遠慮してほしいですね。高槻に「禁煙のバス停」をつくるのも一案だと思いました。

公共施設に駐車場を (40才代、男性)

市民会館や文化ホール、図書館などの公共施設に駐車場が整備されていません。わたしは足に障害があり、車での多動が多いのですが、公共施設に障害者専用のスペースが無いので、遠くから歩くこともしばしばです。障害者にやさしいまちになってもらいたいものです。

【はしもと】誰もが安心して移動できる環境を整えることは、交通政策を考えるうえでもっとも大切なことです。しかし、現状では障害者や高齢者などの方々が安心して利用できる交通機関や施策の整備が遅れているといわざるを得ません。

また、STS(スペシャルトランスポートサービス=既存の交通機関の利用が著しく困難な移動制約者に対し、別途の移動手段を確保すること)についての措置がなされていないなど、不十分な点がまだまだ多く存在します。移動制約者の自立と、社会参加促進のため、バリアフリー社会の実現を進めたいと思います。



学校のグラウンドは芝生であるべき

(サッカーの指導者)

ドイツでは、子どもにサッカーをさせるときは芝生の上と決まっているそうです。膝やかかるとにサポートをして競技をしている選手が多いのも、グラウンドの影響だといわれています。グラウンドに芝生を植えた小学校もあるようですが、ぜひ多くの学校でも試みてほしいです。また、高槻は森林の面積も広いのに、木造の校舎が無いですね。

【はしもと】運動場は土であると思込んでいますが、外国ではスポーツをするのは芝が常識です。社会教育施設の条件整備として、芝のグラウンドを増やしたいですね。また、森林を守るためにも間伐材を内装の材料に使ったり、中庭をデッキ風になっている学校もあります。

砂ぼこりの立つ乾いた運動場と四角で単調な校舎より、やさしい感受性を子どもたちの心の中に育てるには「緑の学校」が一番です。人口急増都市・高槻では、学校は貴重な都市空間。学校の“公園化”という構想はもっと真剣に検討されるべきです。

シックスクールが心配です

(小学生の母)

今、高槻の小学校では統廃合計画で、改築される予定の小学校が各地域で候補にあげられています。今後改築の時の建材によって、子供たちに「シックスクール」が発症しないか心配です。そうなる前に、早急に対策をとらないと「シックスクール」の子どもたちが増え、取り返しのつかないことになるのでは？

【はしもと】02年4月から、牧田小学校と玉川小学校が統合され、すでに新しい学校として始動しています。今のところ建築材料による異変は聞いていません。シックスクールについては文部科学省が調査費を予算計上しています。学校建築では、気をつけているとは思いますが、今後、老朽化が進む学校の改修工事に当たっては十分な配慮が必要だと思っています。

た・こ・や・き その文化って?!

日本コナモン協会会長
熊谷真菜と語る

たこやき文化論に話はずんで

ゆるゆるのモンが丸くなっていく楽しさ

【はしもと】熊谷さんはタコヤキストとしてユニークな活動を展開していらっしやいます。

【熊谷】たこ焼きはいわばコミュニケーションツールです。これ失敗やとか「へたやなあ」とかつっこみを入れながらワイワイとみんな、ゆるゆるのモンが丸くなって行く楽しさを味わう。そしてまわりがカリカリで中がとろっとした食感と香り。一粒で三度おいしい。ソーセージを入れても、イカの塩辛入れても



合うんですよ。いわゆる伝統的なものでないことが幸いしてか、庶民がタコでも小麦粉でも捨てるようなところを使つてとんでもなくおいしいものができちゃつたというのがたこ焼きなんです。

食の信頼回復を!

【はしもと】小麦粉というと日本コナモン協会を設立されたそうですが。

【熊谷】私たちのご神体は石臼です。小麦を挽く練る焼くと、とりあえず全部の工程を知ろうということ。

食べ物のもとをたどっていくスローフードの考え方がとても大事になってきましたね。

【はしもと】そうですね。たとえば、魚を食べるときはまず刺身、次に切り身と、魚の姿で食べないですね。生産と消費が切れている。高槻のような都会に住む子どもたちにこそ命のルーツの食教育は必要です。食は命に直結していますから。

【熊谷】狂牛病のとき、大好きな焼き肉屋さんのおやじが「ぜったいだいたいじょうぶや」と豪語するんです。でも、安全・信頼が崩れちゃうとき、やっぱり自分の感覚にしか頼れないんです。私、なんのために行政や農水省に税金払つてるのよ、っていいなくなる。学校給食の現場でそんなシステムを見てきた橋本さんは

どう納得してるのですか。

【はしもと】以前、タイで少数民族の家にホームステイをしました。洗面器のような入れ物の中のご飯を食べることに直したとき、信頼関係があつてこそ食べることができるといふことがわかりました。今、食の安全神話が崩れていったのはモラルハザードです。食に携わる者は儲かるということより、健康になつて命をつないで欲しいということに仕事を賭けてるはずなんです。その人たちに裏切られたということが大きなショックですね。食の信頼を取り戻さなくては。

【熊谷】国の政策も説明も一般消費者の立場に立つてない。食の社会的な問題の根底には食糧需給という政治的な力が働いているように思います。

一般人はいろいろ言うんだけど、〴〵やおまえてみ」といわれたらしないんです。だから肩代わりしてくれて、きちつとおさえてくれる人を信頼して議員にしたいと思う。橋本さんなりのチェック機能や機構整備をしてくれたら、とても安心なんです。

【はしもと】大阪府では年間3万件もの食に関する問い合わせがあり、八つにまたがる部課で対応されていて、システムがバラバラだったのがまとめられるそうです。高槻でも「食」での政策を市民参画型でやって行きたいと思つています。



◆熊谷真菜 (くまが いまな) のプロフィール

生活文化研究家
・タコヤキスト
1961年西宮市生まれ。1993年、10年間の調査をまと

めた『たこやき』でデビュー。今年日本コナモン協会会長として、5月7日のコナモンの日をめぐり、イベントを計画中。代表作は『たこやき』(講談社文庫)『大阪新発見散歩』(昭文社)『ふりかけ』(学陽書房)など。

<http://www.mesh.ne.jp/osaka/mana/>

つねにくるくと

「目をかける」楽しさ大切さ

【熊谷】おいしいたこ焼きを焼くには、お好み焼きとちがつて常にさわつていないといけない。表面がカリッとしていて中をとろっとさせるには、つねにくるくるまわしてないといけない。そして、一個一個ちがう。子どもと同じように目をかけてやらないと。とくに子どもたちには見えないものを思い考える力をつけて欲しいですね。イメージを広げる力というのかな。それは大自然をベースにさまざまな人の手による食材ひとつひとつにもイメージをふくらませながら、命の大切さを知るといふ食育が重要なんです。

【はしもと】食教育は生きていく根源としての大事な力をつけるもの。かつて食は「家庭の問題でしょ」といわれてきましたが、食に対する栄養の問題や流通や安全の問題は、しつつけの範囲で家庭で行う教育よりはるかに上回る情報が必要で、総合学習での展開はもうろん社会科、理科、生活科にクロスします。科学的に理解するためには、学校教育の中で組み立て直すことが必要ですね。

はしもと紀子は
新しい政治の実現と
住み良い地域づくりのために
がんばります。
いつでもどうぞ



市民相談

生活 / 食と健康 / 福祉
教育と学校 / その他